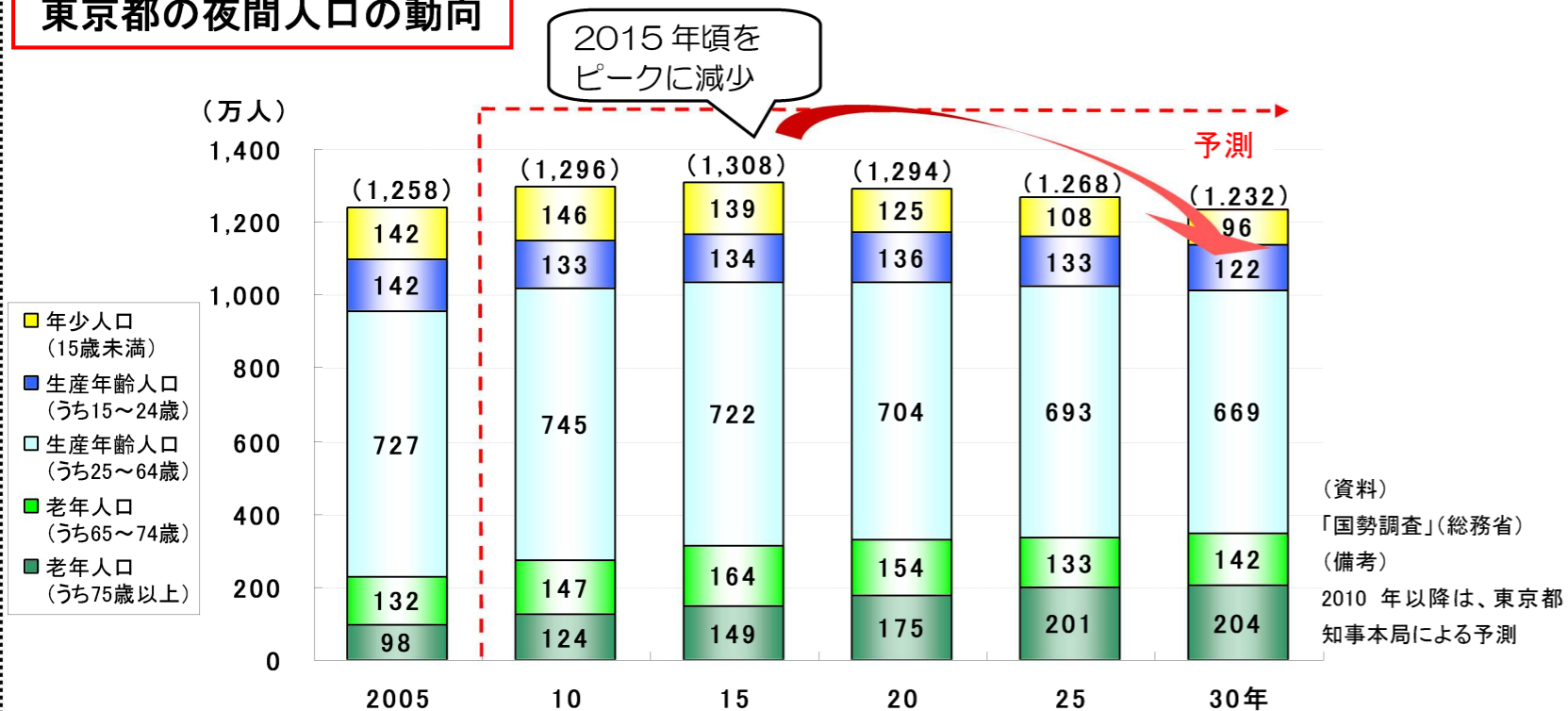


東京は昼・夜間人口ともに当面は増加し、その後減少

○ 全国の人口は既に減少を始めているが
東京都の夜間人口・昼間人口は当面は増加、将来は減少に

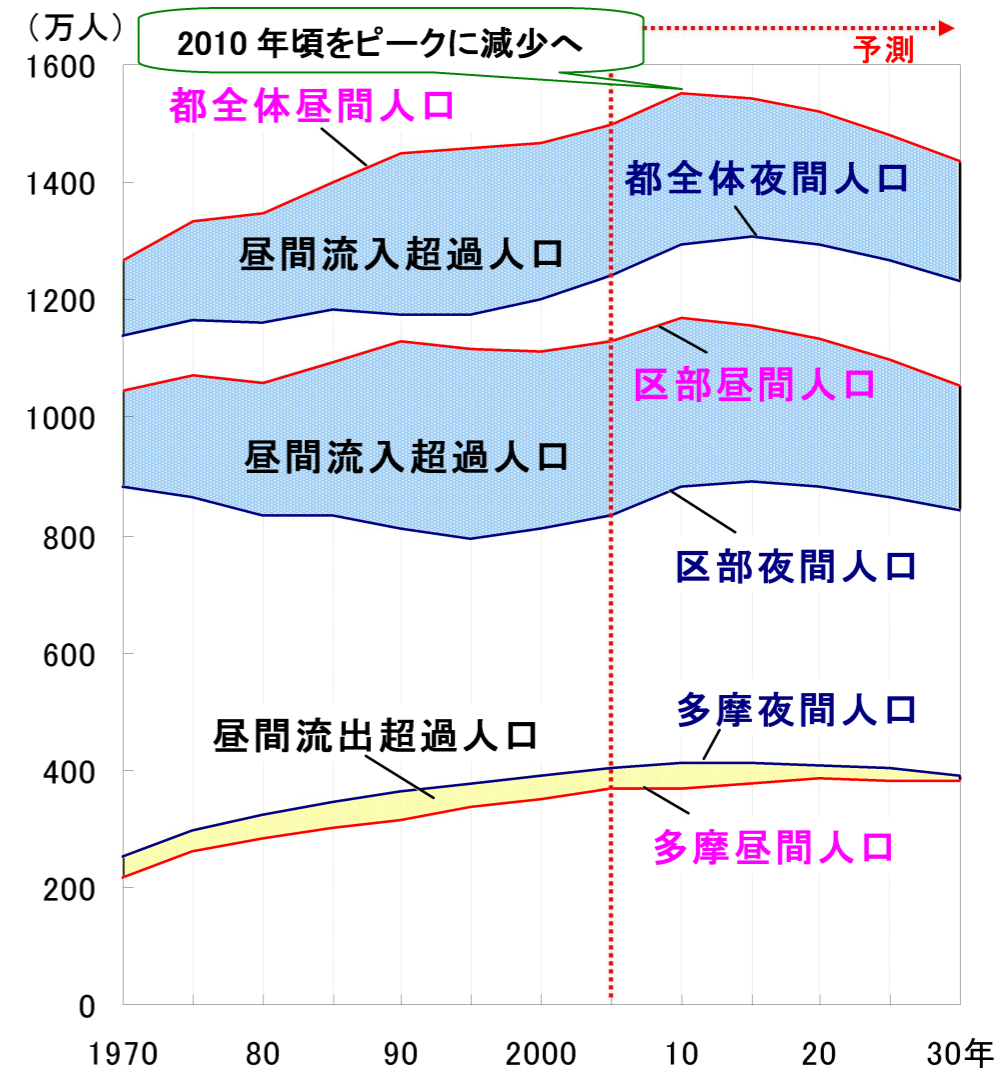
	(2005年)	⇒	(2015年)
全国人口	約1億2,780万人		約1億2,540万人↓
東京都夜間人口	約1,260万人		約1,310万人↑
東京都昼間人口	約1,500万人		約1,550万人↑

東京都の夜間人口の動向



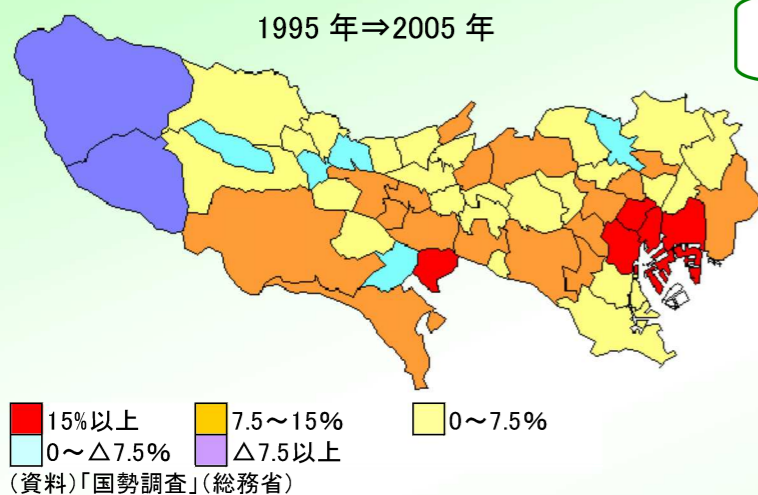
東京都の昼間人口の動向

$$\text{昼間人口} = \text{夜間人口} + \text{昼間流入人口} - \text{昼間流出人口}$$



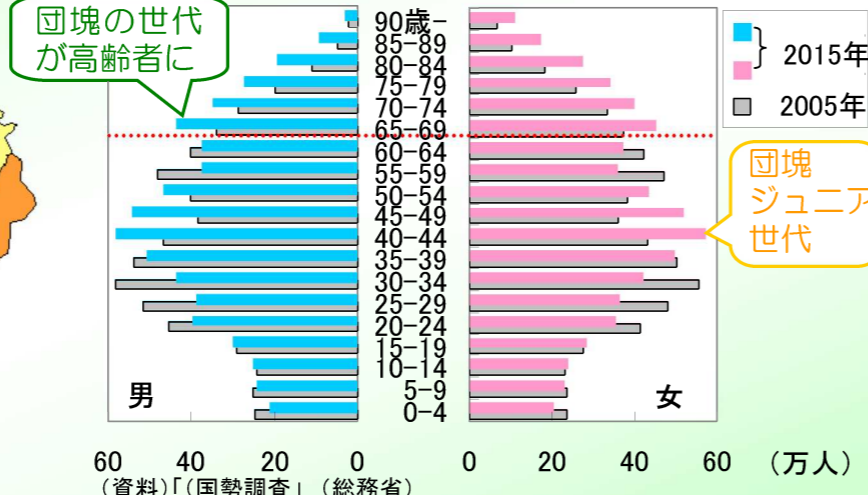
※ 「国勢調査」(総務省)・「都道府県別将来推計人口」(平成19年5月)国立社会保障・人口問題研究所をもとに知事本局において予測
※ 2010年以降は知事本局による予測。予測値は年齢不詳及び労働力状態不詳数者を推計配分した補正値を基礎数値としている。

<区市町村別夜間人口の増減率>



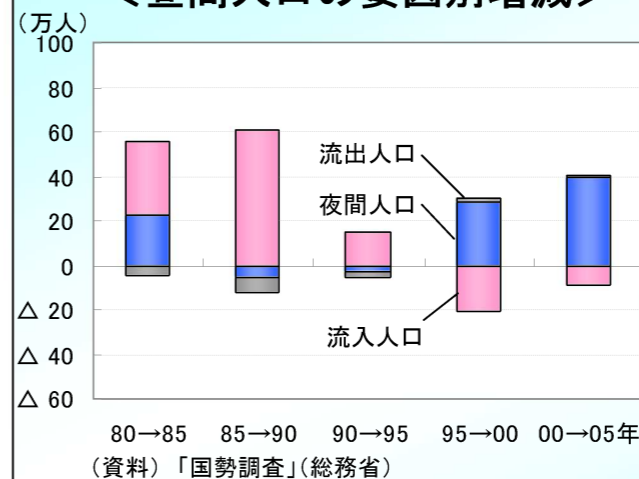
都心回帰を中心とした社会増

<年齢階級別夜間人口>

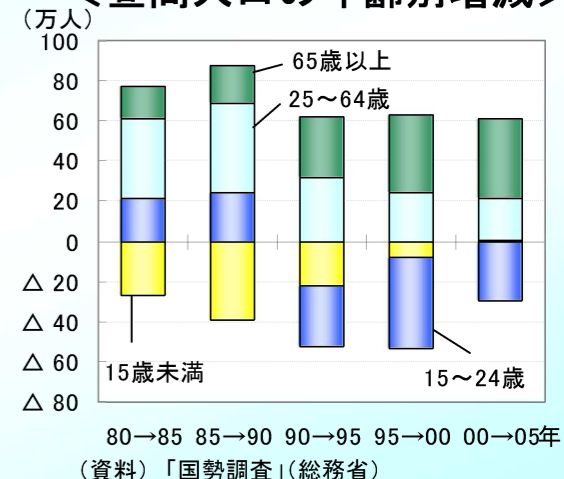


高齢化は確実に進行

<昼間人口の要因別増減>



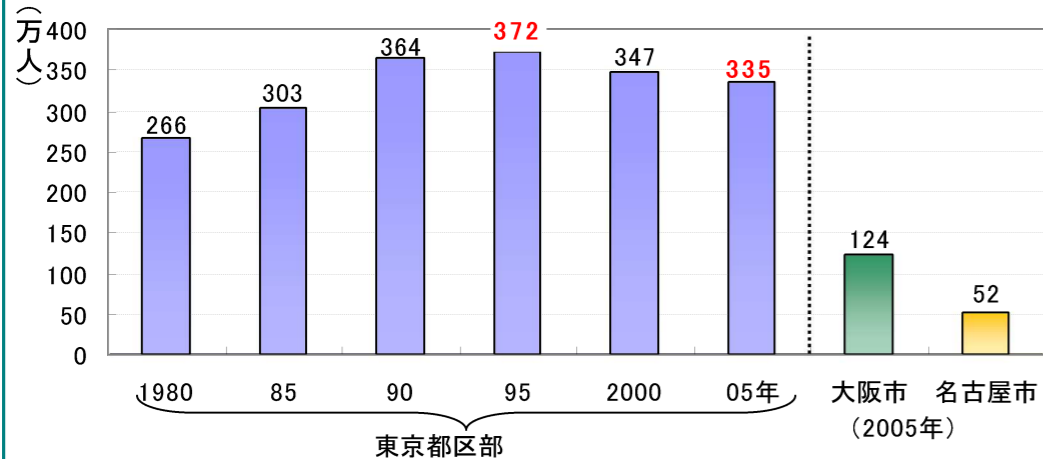
<昼間人口の年齢別増減>



依然として膨大な東京への昼間流入人口

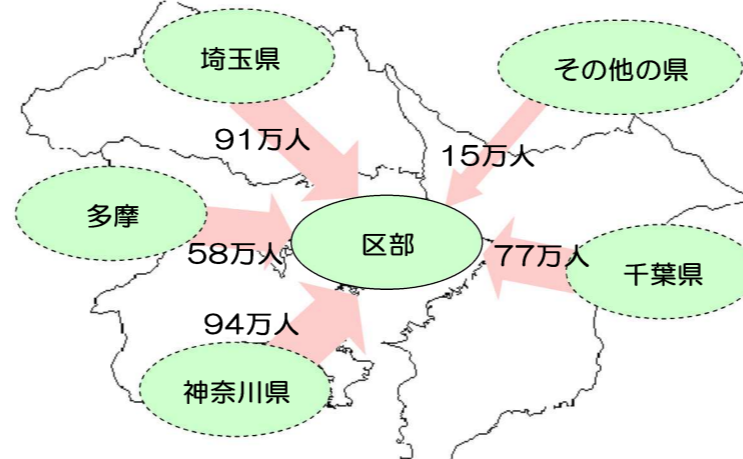
東京（区部）は依然として**335万人**という膨大な昼間流入人口を抱え、世界の大都市と比べても**突出した規模**

<区部の昼間流入人口の推移と比較>



(資料)「国勢調査」(総務省)より作成

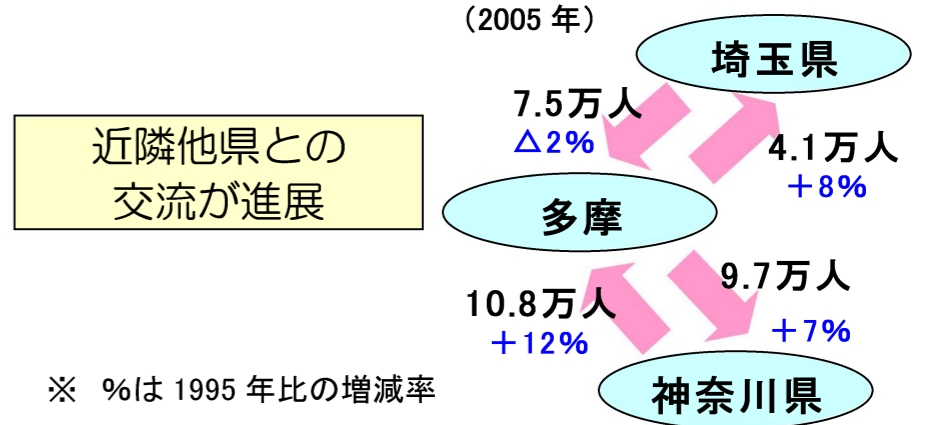
<居住地別 区部への昼間流入人口(2005年)>



(資料)「国勢調査」(総務省)より作成

多摩地域で都域を越えた交流が進展

<多摩と他県との通勤者>

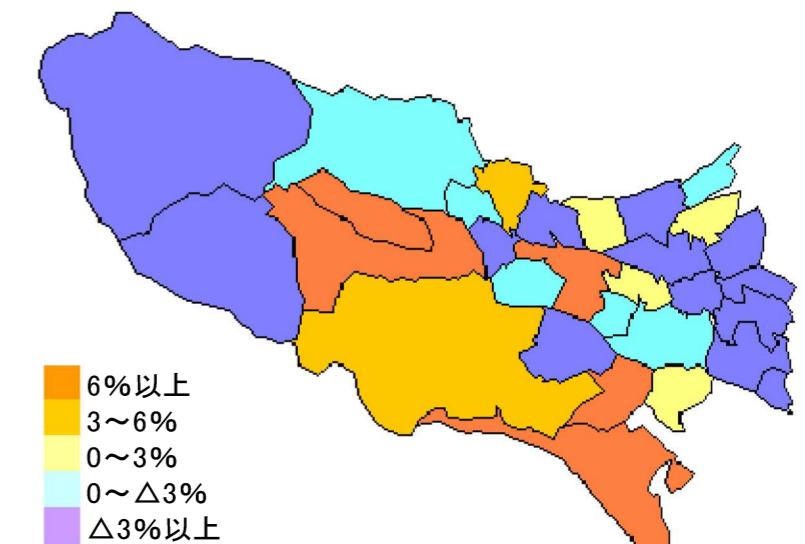


※ %は1995年比の増減率

(資料)「国勢調査」(総務省)より作成

<昼間就業者の増減>

(1995→2005年)



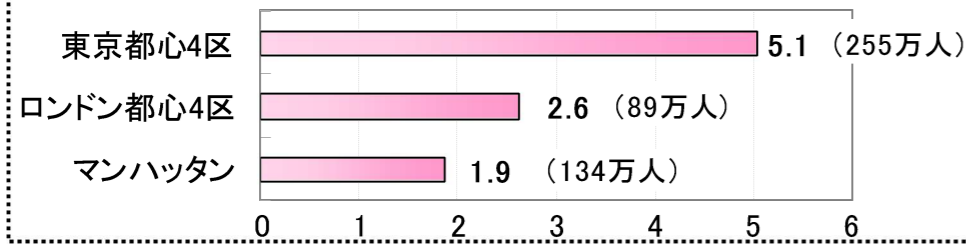
(資料)「国勢調査」(総務省)より作成

八王子、立川、町田などで昼間就業者が増加

<主な開発事例>

- 立川市：立川駅前再開発
- 町田市：まちだテクノパーク（開発型中小企業21社による工業団地）
- あきる野市：武蔵引田駅周辺への半導体工場・研究所新設

<世界主要都市(中心地)の昼夜間人口比率>



(資料)「国勢調査」(2005年、総務省)、「Census 2000」, US Census Bureau、「Census 2001」, National Statisticsより作成

(備考) ()内は昼夜間の人口差

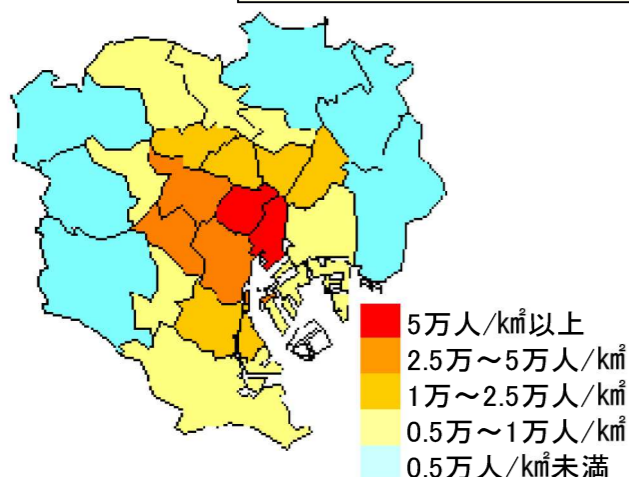
- ・東京は2005年、マンハッタンは2000年、ロンドン2001年
- ・東京都心4区とは千代田区・中央区・港区・新宿区
- ・ロンドン都心4区とはシティオブロンドン・カムデン・ケンジントン&チェルシー・ウエストミンスター

都市再生や臨海地域の開発により、日本の国際競争力を支えるビジネスセンターは、**都心部から湾岸部に広がっている**

<区別 昼間就業者密度>

(2005年)

都心部を中心に集中

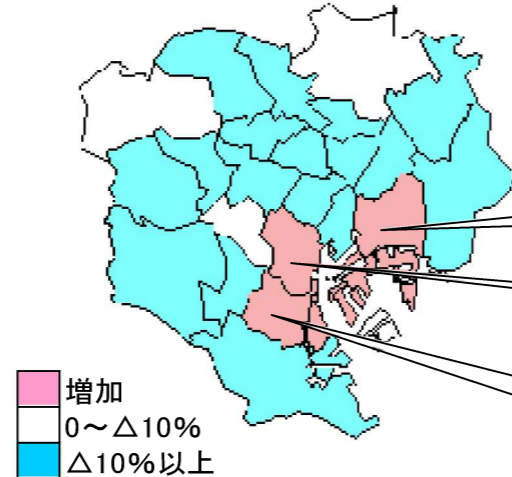


(資料)「国勢調査」(総務省)より作成

<区別 昼間流入人口の増減>

(1995→2005年)

オフィス供給の増加により近年の昼間流入人口は湾岸部で増加



(資料)「国勢調査」(総務省)より作成

- 江東区**
新木場, 青海, 有明
- 港区**
六本木, 新橋, 品川駅東口
- 品川区**
大崎, 東品川